

## <ぐんぐんコース>

### (1) 児童の実態と本時の目標

本コースの児童は2桁+2桁の計算はほとんどできるが、自分の考えを図や言葉で表現し説明する力は不十分である。前単元「わり算」や「大きい数」では図に矢印や言葉を入れて表現する学習を行ってきた。本時では、図に共通のマークを入れることで交流が効果的におこなわれるようにした。位に注目しながら筆算の仕組みが理解でき、繰り下がりが2桁に及ぶ筆算の方法を学ぶことを目標とする。

### (2) 学習指導過程

主な学習活動	教師の支援・援助活動
<p>1 前時の652 - 365との違いを話し合うことを通して本時の課題をつかむ。</p> <p>2 302 - 165の筆算の仕方を考える。 (1) 計算棒などの教具を使ったり、図に表したりして考える。</p> <p>(2) 筆算の仕方を話し合う。</p> <p>3 同じような問題に挑戦する。</p> <p>4 本時の学習でわかったことや次時の課題などをノートにかく。</p>	<p>前時の問題との違いを明確にすることで、本時は一の位同士がひけなくて、十の位が空位になっているが、百の位を使えば何とかできそうだという見通しがもてる話し合いにする。</p> <p>まず、筆算として式の上で答えを出してもいいことを伝える。先に答えを求めた児童には、その仕組みが説明できるように図に表すように指示する。ノートに使う記号や印の約束を確認する。</p> <p>見通しがうまくもてない児童には計算棒などの教具を位取り板の上で操作してみるように声をかける。  <small>評</small> 位取り板の上で、計算棒などを動かして、筆算の仕組みを考えたことをノートに自分なりに表現できたか。  筆算の仕組みがわからない児童には具体物で操作をして説明する。</p> <p>自分なりの図をノートにかいて、説明しようとしている児童を賞賛し、黒板に自分の考えをかくよう指示する。交流のために記号や印の約束を図に書き入れさせる。</p> <p>(評価)【考】「(3位数) - (3位数)で、繰り下がりが2桁におよぶ筆算を既習事項をもとに考えることができる」  B：十進位取り記数法の仕組みをもとに、十の位から繰り下げられないときは、百の位から繰り下げることができる。  A：(3位数) - (3位数)で、繰り下がりが2桁におよぶ筆算も既習事項をもとに、自分自身で考えることができるとともに計算棒などを操作しながら、計算の仕方を説明することができる。</p> <p>全体の場での友達の発表がもう一度言えるような聞き方を指導する。  位の部屋には1～9までしか入れないことを押さえる。  どんな3位数の減法の問題でも、十進位取り記数法の仕組みを使えば、2位数のときと同じように、正確に答えを求めることができることに気づくよう声をかける。</p> <p>どこかの位に空位ができるときは特に気をつけなければいけないことに気づくよう声をかける。</p> <p>少し筆算の仕組みが理解しにくく悩んでいる児童には、位取り板をもう1度使いながら考えるよう声をかける。</p> <p>筆算の仕方についてのまとめだけでなく、自分のがんばりや友達の表現のいいところ(的確さ)もまとめるよう助言する。</p>